

食品中の放射性セシウム濃度の規制値

|       | 日本<br>基準値<br>(2012. 4～) | コーデック<br>ス委員会※ | EU(域内の<br>流通品) | アメリカ  | 韓国  |
|-------|-------------------------|----------------|----------------|-------|-----|
| 飲料水   | 10                      | 1,000          | 1,000          | 1,200 | 370 |
| 牛乳    | 50                      | 1,000          | 1,000          | 1,200 | 370 |
| 一般食品  | 100                     | 1,000          | 1,250          | 1,200 | 370 |
| 乳児用食品 | 50                      | 1,000          | 400            | 1,200 | 370 |

単位はベクレル/kg

※消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1963年に国際連合食糧農業機関（FAO）及び世界保健機関（WHO）により設置された国際的な政府間機関であり、国際食品規格の策定等を行っています。

わが国では2012(平成24)年4月1日より、新たに食品中の放射性物質について「基準値」が設定されました。新しい基準値では食品を4項目に分類し、最も摂取頻度の高い「飲料水」については10ベクレル/kgと非常に厳しい数値が設定されました。また、乳幼児の摂取量が多い「牛乳」は50ベクレル/kgに、さらに乳児の安全生確保の面から「乳児用食品」という新たな項目が設定され、牛乳と同じレベルの50ベクレル/kgとされました。それ以外の「一般食品」すべてについては100ベクレル/kgという値が設定されました。

一般食品として全部を一括りにした背景には、個々人の食習慣の違いから来る追加被ばく線量の差を最小限にするという考えがありました。どんな食品を食べても、それらが基準値内であれば安全は確保できるというじゅうぶん余裕を持った値として設定されました。

なお、各国の規制値が異なる理由は、規制値を設定する際に仮定した1年間の被ばく限度や、食品中の汚染率などが、それぞれの国などによって異なるためです（日本：被ばく限度は年間1ミリシーベルトまで。安全側にたち一般食品は50%、牛乳・乳製品と乳児用食品は100%が汚染されていると仮定。コーデックス委員会：被ばく限度は年間1ミリシーベルトまで。食品中の10%が汚染されていると仮定）。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日